

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その3)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致
主 な 取 組 内 容		
施策1	札幌の都市イメージを活用した産業の振興	
	19年度(実績)	20年度(実績)
	<p>「スイーツ王国さっぽろ推進協議会」において、スイーツコンペティション、スタンプラリーのほか、さっぽろスイーツのPR事業を実施。また、札幌のスイーツを切り口とするイベントとして新たに「さっぽろオータムスイーツファンタジー」を大通公園で開催(19年9月7日～9日)</p> <p>地元農産物の見本市(スイーツマルシェ)の開催(開催1回、17店200名参加)</p> <p>札幌スタイル推進事業では産学官で構成する有識者会議(札幌スタイル・デザイン会議)により、これまでの事業成果と課題を検討。今後の中長期的な方向性を取りまとめた「札幌スタイル推進戦略」の提言を受けた。</p>	<p>狸小路商店街の空き店舗を活用し、平成20年12月に、民間事業者の運営による「道産食彩HUG(ハグ)」を開設した。スタンプラリーの開催など市民参加型のイベントに加え、「さっぽろオータムフェスト2008」の開催に合わせ、「さっぽろオータムスイーツファンタジー」を実施するなど、幅広くさっぽろスイーツの周知を行った。</p> <p>地元農産物の見本市(スイーツマルシェ)を年2回開催した(22店、390名参加)。</p> <p>「札幌スタイル推進会議」を設置し、認証基準や審査方法を見直したうえで、新規10製品、更新50製品の認証を行った。また、「Rタワー」における「札幌スタイルショップ」の開設やデザインコンペティションの実施、市内・道外への出展を通して、積極的な周知や販路拡大支援を行った。</p>
	21年度(実績)	22年度(実績)
	<p>「道産食彩HUG(ハグ)」の運営を補助することで、広く全道各地の道産品を販売することができ、市民や観光客に北海道の魅力を発信に貢献した。</p> <p>スタンプラリーの開催等により、引き続き「さっぽろスイーツ」の周知に努めるとともに、「さっぽろスイーツカフェ」を開設したことで、「札幌の食」のブランド力強化や、洋菓子産業、観光産業の活性化に貢献した。</p> <p>地元農産物の見本市(スイーツマルシェ)を年1回開催した(20店、200名参加)。</p> <p>引き続き、「札幌スタイル推進会議」を開催し、認証基準や審査方法の改正を実施し、新規19製品、追加14製品を認証した。また、平成20年度のデザインコンペティション入賞作品の製品化に向けたマッチング等を実施し、20作品のうち、3作品の製品化に成功した。</p>	<p>引き続き、「道産食彩HUG(ハグ)」の運営に伴う賃借料相当分を補助し、安定した運営ができるよう支援する。</p> <p>スタンプラリーの開催等により、「さっぽろスイーツ」の周知に努めるとともに、道内の生産者等と消費者である札幌市民とをつなぐことを目的として、北海道の食に関する情報を集約したウェブサイトを開設した。</p> <p>地元農産物の見本市(スイーツマルシェ)を年1回程度開催した(13店、319人参加)。</p> <p>引き続き、「札幌スタイル推進会議」を開催し、民間主導での運営管理に向けた検討、認証基準や審査方法の改正を実施し、新規13製品、追加1製品を認証した。また、札幌スタイル公式ホームページを開設し、認証製品の魅力的な情報発信の充実に努めた。</p>

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その4)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致
主 な 取 組 内 容		
施策2	IT・コンテンツ・バイオなどの新産業の育成・拡大	
	19年度(実績)	20年度(実績)
	<p>ものづくり(印刷業)及びバイオ分野において、首都圏企業と市内企業とのマッチングを実施 平成19年7月にIT・バイオ産業のビジネスマッチングを横浜で、平成20年1月神戸・大阪においてバイオ産業のビジネスマッチングを開催(3会場の来場者数 500名超) クリエイティブ commons の普及等を議論する国際会議「アイコモンズサミット2008」の誘致、「創造都市さっぽろ」の考え方を視覚的に表すVI(Visual Identity)策定 ショートフィルム等のコンテンツを年間通じて取引が行える「さっぽろコンテンツマーケット」の構築に向けた調査を実施。 若手クリエイター育成として首都圏の映像制作会社ヘンター派遣等を実施 ITアーキテクトやプロジェクトマネージャーといった高度IT人材の育成、首都圏発注側企業と市内IT企業とのビジネスマッチング・コーディネート等を実施。 新産業・新技術の事業化支援として、2件の案件を支援した(「サーモンオバリーペプチド第2世代の開発」、「環境に配慮した地域ブランド紙石鱈」の製品化) 新産業の育成等を目的とした北大R&Bパーク推進協議会に参画し、大学の研究開発等を事業化するための支援(3件)を実施 「国際競争力のあるバイオクラスターの形成」を目的に、文部科学省から「知的クラスター創成事業(第 期)」の採択を受け、北大を中心とした研究開発を促進</p>	<p>ものづくり(印刷業)及びバイオ分野における首都圏企業と市内企業とのマッチングを実施するとともに、平成21年3月にビジネス支援サイト「T BONE」を立ち上げた。 平成20年9月に、札幌市において機能性食品・化粧品分野に特化した全国規模のビジネスマッチングを開催したほか、平成21年2月に神戸・大阪においてバイオ産業のビジネスマッチングを開催した(3会場の来場者数 約700名)。 「アイコモンズサミット2008(平成20年7月29日～8月1日、参加者数550人)」を開催したほか、地元クリエイター等の参加による創造都市さっぽろ活用ワークショップを開催した(参加者数53人)。 「さっぽろコンテンツマーケットシステム」が構築・稼動し、コンテンツの取引が可能となった。 若手クリエイターを首都圏の映像制作会社にインターン派遣するなど人材育成を進めるとともに、ロケーション誘致支援業務の体制強化により、ロケ撮影日数が増加された。 研修等の実施により、高度IT人材が育成されたほか、市内IT企業への就職マッチングが進められた。 新産業・新技術の事業化支援として、3件の案件を支援した(「遠隔放射線治療支援システムの開発」、「スマートスイーツ「ライト」の開発」、「ジャガイモYウイルスN系統検出試薬の開発」) 北大BI(ビジネス・インキュベーション)入居者に対し、IM(インキュベーション・マネージャー)を配置するなど、研究開発の促進に向けた支援を行った。 「知的クラスター創成事業(第 期)」として、3テーマ(「免疫・アレルギー改善研究グループ」、「認知症機能改善研究グループ」、「代謝機能改善研究グループ」)の研究開発を進めた。</p>
	21年度(実績)	22年度(実績)
	<p>環境関連産業分野において、首都圏企業と市内企業とのマッチングを実施するとともに、ビジネス交流会の開催や「T BONE」の運用を行った。 平成21年9月に札幌において機能性食品・化粧品分野に特化したビジネスマッチングを開催し、平成22年3月には関西地区におけるBIOビジネスマッチングを開催した。 平成20年度の「創造都市さっぽろ推進会議」からの提言を受け、「クリエイティブ・シティーズ・ネットワーク」への加盟に向けた情報収集を実施するとともに、ワークショップを開催や、グラフィックデザイン産業のビジネスマッチング等を実施した。 平成20年度に開設した「コンテンツマーケットシステム」の保守業務を行うとともに、コーディネーターを配置し、システム登録情報の更新や販路開拓の支援等を行った。 若手クリエイターを首都圏の映像制作会社に派遣するなど人材育成を進めるとともに、ロケーション誘致支援を実施し、さっぽろフィルムコミッションの機能強化を行った。 高度IT人材の育成や市内IT企業への就職マッチングを実施し、札幌イノベーションセンター(SIC)を核に、独自ソフトウェア(SaaS)等の新技術に係る人材育成を行った。 新産業・新技術の事業化支援として、3件の案件を支援した(「ステロイド系治療薬に関する植物バイオセンサーの開発」、「付加価値の高いデータ解析を短時間で実施するシステムの構築」、「血清低減倍地及び化学合成培地の開発」) バイオ等の先端企業を支援するため、北大BI入居者に対し、賃料補助及びIMの配置による企業育成支援を行った。 平成20年度に引き続き、同様の3テーマについて、研究開発を進め、事業化に向けた研究開発に取り組んだ。 SaaS(サーズ): Software as a serviceの略。ユーザが必要とするシステム機能を、ネットワークを通じて提供するサービス、あるいはサービスを提供するビジネスモデルのこと</p>	<p>首都圏企業と市内企業とのマッチングを実施するほか、引き続き、ビジネス交流会の開催や「T BONE」の運用を行う。 平成22年9月に札幌において機能性食品・化粧品分野に特化したビジネスマッチングを開催し、平成23年2月には関西BIOビジネスマッチング2011に参加した。 「クリエイティブ・commons」普及活動の支援を行うとともに、官民連携会議を設置し、「ユネスコ創造都市ネットワーク」加盟に向けた検討を行った。また、引き続きグラフィックデザイン産業のビジネスマッチングを実施した。 引き続き「コンテンツマーケットシステム」の保守業務を行うとともに、コーディネーターを配置し、システム登録情報の更新や販路開拓の支援等を行った。 若手クリエイター育成のため、首都圏の映像制作会社から講師を招へいし研修を開催するなど人材育成を進めるとともに、ロケーション誘致支援を実施し、さっぽろフィルムコミッションの機能強化を図った。 高度IT人材の育成や市内IT企業への就職マッチングを実施したほか、社会的ニーズの高まっている情報セキュリティ、SaaSなどの新技術に係る人材育成や「包括フレームワーク」によるシステム開発に関する技術伝播の研修を行った。 新産業・新技術の事業化支援として、3件の案件を支援した(「大型車両(T-25)対応型の通気性平板ブロックの開発」、「画面付き組み込み機器向けに低価格、高拡張、省電力CPUボードの開発」、「光電子顕微鏡の極低温機構の開発」) バイオ等の先端企業を支援するため、北大BI入居者に対し、賃料補助及びIMの配置による企業育成支援を行った。 平成21年度に引き続き、同様の3テーマについて、研究開発を進め、事業化に向けた研究開発に取り組んだ。</p>

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その6)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致
評価(成果)		課題
施策1 札幌の都市イメージを活用した産業の振興		
<p>「食のまち札幌」の推進としては引き続き、市民参加型のコンペティションの実施やスタンブラリーの開催したほか、「さっぽろスイーツカフェ」を開設したことで、より多くの市民・観光客に「さっぽろスイーツ」を提供できる機会を創出し、「スイーツの街さっぽろ」の実現、さらには、食関連産業の活性化に貢献している。</p> <p>「札幌スタイル推進事業」により、異業種企業・人材間の連携が進められている。札幌の都市イメージやデザインを活用した製品が北海道内外で流通し、売上げが増加するなどの成功事例がみられ、外貨の獲得と道内取引の拡大や域内消費の拡充に向けた取り組みとなっている。</p>		<p>北海道の食資源を活用した「札幌の食」等を都市ブランドとして確立するとともに、北海道産の素材をより活用することで、道内経済循環の拡大を図り、北海道経済を牽引していく必要がある。</p> <p>また、ブランドの永続的に活用し、ビジネスモデルとして確立していくために、現在の行政主導の運営から、民間主導を行政で後押しする方式に移行する必要がある。</p>
施策2 IT・コンテンツ・バイオなどの新産業の育成・拡大		
<p>高度人材の育成としては、平成18年度からの年間で1,000名を超える技術者に対して研修を実施、また平成22年度には産総研包括フレームワークの知識を広める研修に479名が参加しており、高度なスキルを有した人材や即戦力エンジニアの育成につながっている。</p> <p>コンテンツ産業の振興としては、ロケ支援業務の専門スタッフを確保するなどの支援体制を強化することで、高水準のロケ撮影日数を維持しており、首都圏の映画会社へのインター派遣やワークショップを通して、人材育成の基盤づくりを進めることができた。</p> <p>バイオ産業の振興としては、関西でのバイオマッチングに加え、昨年度に続き、札幌において機能性食品・化粧品分野に特化した全国規模のビジネスマッチングを開催し、精度の</p>		<p>IT関連産業は、景気低迷下での業務受託量の減少、受注単価の低下により、厳しい経営環境の置かれている。今後は、協業化の推進などによる大型受託業務を可能とする体制の整備を行うとともに、受託業務に頼らないメーカー型構造転換などの対策が必要となる。</p> <p>また、バイオ関連産業においては、ニーズやトレンドなどの内部、外部環境が刻々と変化するため、有望な技術・素材を活かすことができるよう販路拡大や企業連携の支援を適切に行っていく必要がある。</p>
施策3 札幌の優位性を活かした企業の誘致		
<p>IT、コンテンツ、バイオ産業の誘致については、平成22年度までの誘致件数は15社となり、順調に推移している。これらの産業を誘致することにより、安定した雇用の創出、産業集積、及び産業の高度化等につながり、札幌らしい新産業の育成と企業の誘致に効果があった。</p> <p>コールセンター・ニュービジネスの誘致については、平成22年度にまでに19社が新たに札幌市に立地した。このことに伴い、雇用の創出、市税収入の増加等が図られ、地域経済の活性化に寄与している。</p>		<p>札幌の優位性を活かした企業の誘致という観点では、多くの自治体が地域特性を活かした企業誘致を進めており、地域間の競争は激化していることから、本市の特色を活かした誘致施策をさらに充実させていく必要がある。</p>
今後の重点取組		
<p>食品関連産業の競争力を高めるため、これまで培ってきた企業・関係団体のネットワークや情報等を十分活用しながら、札幌の強みである食資源の高付加価値化、販路拡大などを支援するとともに、食の加工、流通、マーケティング等のプロセスについて総合的な支援を行っていく。また、北海道との連携をより一層深めることで、道産の食の消費促進を啓発し、道内経済、さらには本市経済の活性化を図っていく。</p> <p>IT関連産業は下請的な受託型の産業構造から脱却するために、高度な技術を有した人材の育成支援を行うとともに、大型案件や本旨のIT調達案検討を地場産業が受注できるよう協業化の体制構築支援を行う。また、バイオ関連産業については、最大の課題である販路拡大・企業連携を支援するため、国内外の地域・企業との連携をさらに促進していく。</p> <p>石狩市を始めとした札幌広域圏と連携した企業誘致施策を展開し、札幌経済圏として企業立地の優位性を対外的にPRしていく。また、平成21年度より新制度を立ち上げ、札幌市が参画する、企業立地促進法に基づく「道央中核及び道央札幌地域産業活性化協議会」において集積を目指している食料品関連や情報関連の製造業等にも誘致補助を拡充しており、札幌の地域特性を活かした企業誘致を今後、さらに促進していく。</p>		

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その7)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致

成果指標等の動向

<p>項目1 スイーツ王国さっぽろ推進協議会への参画会員数(単位:社)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H22</td></tr> <tr><th>数値</th><td>85</td><td>130</td><td>134</td><td>150</td><td>155</td><td>170</td></tr> <tr><th>注</th><td>(現状値)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(目標値)</td></tr> </table> <p>[実績値の推移に係る検証] アンテナショップ開設の効果等により、参加会員数が伸びている</p>	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22	数値	85	130	134	150	155	170	注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)	<p>項目2 札幌スタイル認証製品数(単位:件)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H22</td></tr> <tr><th>数値</th><td>56</td><td>56</td><td>95</td><td>130</td><td>141</td><td>100</td></tr> <tr><th>注</th><td>(現状値)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(目標値)</td></tr> </table> <p>[実績値の推移に係る検証] 認知度向上が認証事業応募の増加へつながっている</p>	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22	数値	56	56	95	130	141	100	注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22																																					
数値	85	130	134	150	155	170																																					
注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)																																					
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22																																					
数値	56	56	95	130	141	100																																					
注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)																																					
<p>項目3 取引可能な映像作品等の集積本数(累計、単位:本)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H22</td></tr> <tr><th>数値</th><td>1,500</td><td>3,850</td><td>6,666</td><td>9,107</td><td>12,011</td><td>10,000</td></tr> <tr><th>注</th><td>(現状値)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(目標値)</td></tr> </table> <p>[実績値の推移に係る検証] 順調に推移しており、最終年で目標値達成</p>	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22	数値	1,500	3,850	6,666	9,107	12,011	10,000	注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)	<p>項目4 大学の共同研究・受託研究実績(単位:件)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H22</td></tr> <tr><th>数値</th><td>821</td><td>852</td><td>922</td><td>965</td><td>937</td><td>1,000</td></tr> <tr><th>注</th><td>(現状値)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(目標値)</td></tr> </table> <p>[実績値の推移に係る検証] 産学官連携の取組が進むなど順調に増加してしたが、平成22年度</p>	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22	数値	821	852	922	965	937	1,000	注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22																																					
数値	1,500	3,850	6,666	9,107	12,011	10,000																																					
注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)																																					
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22																																					
数値	821	852	922	965	937	1,000																																					
注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)																																					
<p>項目5 IT・コンテンツ・バイオ企業及びコールセンター・ニュービジネスの誘致数(単位:社)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H22</td></tr> <tr><th>数値</th><td>39</td><td>45</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>75</td></tr> <tr><th>注</th><td>(現状値)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(実績)</td><td>(目標値)</td></tr> </table> <p>[実績値の推移に係る検証] 景気低迷の影響を受け、目標値にわずかに及ばなかった</p>	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22	数値	39	45	60	65	73	75	注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)	<p>項目6</p>																					
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H22																																					
数値	39	45	60	65	73	75																																					
注	(現状値)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標値)																																					

成果指標等から見た重点課題の評価

「スイーツ王国さっぽろ推進協議会への参加会員数(項目1)」は、着実に増加している。今後とも、「札幌の食」というブランドの確立に向けて、企業が参画するメリットを打ち出しながら、より多くの市内企業の参画を促していく。

「札幌スタイル認証製品数(項目2)」は、札幌スタイルの認知度向上により、着実な増加しており、目標値を前倒して達成することができた。引き続き、札幌スタイルの認知度の向上に向けた取組みを行い、認証を行っていく。

「取引可能な映像作品等の集積本数(項目3)」は、平成20年度に「さっぽろコンテンツマーケットシステム」が構築されて以来、札幌国際短編映画祭を通じて蓄積した世界中の短編映画の活用が図られており、順調な増加となっている。平成21度からはシステムが稼働し、コンテンツ取引が可能となったため、コーディネーターが中心となったプロモーション活動を進め、コンテンツ産業における商取引の活性化を図っていく。

「大学の共同研究・受託研究業績(項目4)」は、文部科学省から採択を受けた「知的クラスター創成事業(第 期)」や「北大BI(ビジネス・インキュベーション)」の開設等により、概ね増加傾向を示している。引き続き、地元企業の参画の促進させるなど、札幌の強みを活かした研究開発を行い、研究成果の製品化・事業家を促進させていく。

「IT・コンテンツ・バイオ企業及びコールセンター・ニュービジネスの誘致数(項目5)」は、景気低迷下における企業の新規投資抑制の影響を受け、目標値にわずかに及ばなかった。今後とも、市税収入の増加や安定した雇用の創出のためにも、誘致数を増加させ、地域経済の活性化に結び付けていく。